

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

実施機関名	サブユニット	ページ
環境省		2
コアセンター		3
メディカルサポートセンター		6
北海道		7
宮城		11
福島		13
千葉		16
神奈川		19
甲信	山梨大学サブユニット	21
	信州大学サブユニット	24
富山		26
愛知		29
京都		31
大阪		33
兵庫		35
鳥取		38
高知		41
福岡	産業医大サブユニット	43
	九州大学サブユニット	45
南九州・沖縄		47

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 環境省

	自己点検項目	取組状況及び予定	所見
1	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画評価、国際、広報にかかる委員会を設置し、所要の課題について指導・助言を受けながら検討を進めた。 ・ 調査を確実に進めるため、国民に成果を伝えていく。 	<p>○調査が所期の成果を収めるためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。</p> <p>○予算・体制の確保のためにも、また、リクルート率・フォローアップ率の確保・向上のためにも、エコチル調査に関する認知度・理解度の向上が極めて重要である。</p>
2	企画評価委員会への報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施状況について報告するとともに、今後の評価のあり方について審議を行った ・ 調査を着実に進めるため、適切に評価を行い、課題の改善につなげていく。 ・ 平成24年度に行う中間評価の在り方について検討し、適切な評価を行う。 	
3	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の準備状況に合わせて倫理審査を行い、「適」の判定を得た。 ・ 遺伝子解析にかかる研究計画の具体化後に、改めてゲノム指針に基づく審査を受ける予定である。 	
4	情報発信・コミュニケーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、パンフレットの更新、メールマガジン、政府インターネットTVの配信、キックオフイベント、妊婦雑誌への掲載、企業サポーター登録等を行い、国民への情報発信を進めた。 ・ 国際学会等において発表を行い、専門家への情報発信を行った。 ・ 上記活動やシンポジウムの開催等、引き続き、認知度向上を目指した広報活動を積極的に推進していく。 	<p>○さらに工夫した広報活動を展開するとともに、調査の進捗状況や集計結果、成果等を、絶えず国民に伝えていくことが重要である。</p>
5	海外のコホートとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際連携会議を開催し、意見交換を行うとともに、今後の連携について提言を行った。 ・ I4Cへの参加を決定し、所要の手続きを進めた。 ・ WHO及び日米独の呼びかけによる大規模出生コホート作業WGを開催し、コホート間の共通化、標準化等について検討を進めている。 	<p>○WHOや諸外国のコホート調査との意見交換を積極的に行い、さらなる連携を進めるとともに、世界最大規模の出生コホート調査として、リーダーシップを発揮していくことが期待される。</p>
6	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ コアセンターと連携し、事前審査を踏まえた審査の手続きを整備した。 ・ 全体調査への影響を考慮しながら、コアセンターが行う追加調査のフォローアップを把握するとともに、適切に追加調査の審査を進める。 	<p>○追加調査の財源の確保やデータの分析等に当たり、関係省庁との具体的な連携を図るべきである。</p>

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： コアセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定	所見
1	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30名体制（研究系8名、事務系6名、委託研究職員等3名、アシスタントスタッフ8名（常勤6名）、高度技能スタッフ5名（常勤1名））にて運営。 ・ 調査の進捗に応じて、参加者数増加に伴う質問票の発送、転居者のフォローアップや分析関連等の業務が増大すると見込まれるため、今後、人員を増やすなどさらに体制を充実させる必要がある。 	<p>○エコチル調査の実施主体として、各種委員会を運営して調査内容や現場の課題等を検討し、全国のユニットセンターと緊密な連携を図りながら全体をとりまとめている。</p>
2	リクルート	<ul style="list-style-type: none"> ・ リクルート者数の目標を若干下回っている要因を調査・分析した上で、必要な改善策を講じていく予定。 ・ リクルート状況について、ユニットセンターにおける自己分析の状況を把握しているところであり、参考になる分析事例を示すことを検討。 ・ 分析にあたっては、協力医療機関毎の声かけ数、同意率、RCの配置数、これらの月毎のデータを把握することが必要。 	<p>○ ユニットセンターが自らの運営を見直し、改善を図っていくためリクルートやデータ入力方法、広報活動等について、他のユニットセンターの経験やノウハウを情報共有できる機会を、適宜提供することが望ましい。</p>
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分析結果の返却については、システムの不備に起因するトラブルの発生もあったが、速やかに改善措置を講じ、現時点では順調に業務を実施している。 ・ 追跡率の集計について検討中。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出生後のアウトカムの測定について、遅滞なく調査を実施できるよう計画を策定中（フォローアップ計画案をユニットセンターに照会中）。 ・ 平成23年8月以前の出産に対応するため出産6か月後の質問票（6m）について、順次ユニットセンターに発送予定。 ・ 出産1年後の質問票（12m）を検討中。 ・ 化学分析等のマニュアルについては、分析方法の今後、整備を進めることとしている。 	
5	詳細調査	—	

6	データシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットセンターにおけるデータ入力状況を踏まえ、システム端末等の増強を行った。 ・質問票の発送業務への対応等システムの一部改修を進めるとともに、今後、更にデータ入力業務の増大が見込まれることを踏まえ、所要の対応策を講じる必要がある。追跡調査の本格化に備え、ユニットセンターにおける端末増設の要望を調査中。 ・メンテナンス及びヘルプデスクが十分機能しておらず、分割調達だったことが要因の一つであったとも考えられ、契約を見直し中。 	<p>○ データシステムのメンテナンス業務やヘルプ窓口業務が十分機能しておらず、ユニットセンターにおいて効率的に業務が行われるよう、重点的に改善していくことが望ましい。</p>
7	生体試料	<ul style="list-style-type: none"> ・採取手順の誤り等トラブルの発生に応じて、迅速な対応に努める一方、関係者に対する注意喚起や、所要の調査手順の見直し等を行った。 ・平成24年度コアセンターにおいて、 180℃保管する施設を整備する予定。現在一部の試料を、外部機関に場所を借りて保管。 ・ユニットセンターで不適切な対応があった場合は、記録に残し、情報を共有している。 ・回収業者において、情報伝達が不十分であるなど問題が見られたが、当初より改善されてきている。 	
8	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・調査の進捗に応じて、所要の研修を実施していく予定。 ・内部研修として、電話対応研修、生体試料取扱い研修を行った。 ・リクルート方法、広報、データ入力について、ユニットセンターがノウハウを共有できるようにしたい。 	
9	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・事故・トラブルの発生に応じて、迅速な対応に努める一方、関係者に対する注意喚起や、所要の調査手順の見直し等を行った。 ・倫理問題について専門に検討する委員会を立ち上げ、検討体制を強化することを計画している。 	
10	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・リクルートの進捗状況の分析結果を踏まえて、必要に応じ、広報ツールの改善等に取り組む予定である。 ・参加者向けに情報提供するホームページを作成を検討中。 ・コールセンターにおいて、子育て相談の利用が、最近増えている。 	

11	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子解析に関する研究計画が具体化されていないため、ゲノム指針に基づく倫理審査については、研究計画具体化後に改めて審査を受けることとしている。 ・ 質問票を作成するごとに、国立環境研究所倫理委員会にて迅速審査にかけてる。 ・ 倫理問題検討分科会を運営委員会の直下の専門委員会にする予定である。 	
12	データの利用・解析、情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの固定、成果発表が円滑に実施できるよう、データクリーニングの体制整備や成果発表リストの作成等を進める必要がある。 ・ データ利用、成果発表に関して基本ルールは合意ができています。 ・ 成果発表リストを作成し、運営委員会に提示していく予定。 	
13	パイロット調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォローアップ計画の立案に対応し、パイロット調査を着実に進めていく必要がある。 ・ 発達に関する調査や、結果の返し方などを、プレテストとして、パイロット調査で実施していきたい。 	
14	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前審査における審議状況を踏まえて、審査のポイントとなる部分が明確になるように申請様式の見直しを行うなど、円滑な審査を行うための改善措置を講じた。 ・ 追加調査の着手件数が増加に応じて、全体調査への影響の有無が遅滞なく把握できるよう、適切にフォローアップしていく必要がある。 ・ 3件の追加調査が開始されている。 ・ 3ヶ月ごとにユニットセンターが状況報告することとなっており、評価の仕組みづくりについて検討中。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： メディカルサポートセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年12月記入	所見
1	実施体制		<p>○ フォローアップや詳細調査の具体的内容の検討が予定より遅れ、調査に間に合うぎりぎりのタイミングとなっており、ユニットセンター等における準備に十分時間がとれない状況となっていたが、体制の見直しが進められている。これらの作業が遅れることなく進むよう、長期にわたる体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。</p>
2	全体調査	<ul style="list-style-type: none"> ・パイロット研究で行ったアウトカム測定の出典と妥当性を調査した。 ・現在、生後24か月までの調査を視野に入れて検討を進めている。 	<p>○ 全国の小児科や産婦人科の臨床医等との意見交換や議論を通じてフォローアップ計画の検討を進め、医学的支援を行うことを期待する。</p>
3	詳細調査	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医が診断する疾患は、専門医の診断を聞く仕組みがあればよく、主治医からの情報をどう収集するかを検討が必要である。 ・診断精度にばらつきがある精神神経発達とアレルギーについては、アウトカムの把握方法を統一する必要がある。 ・アレルギー分野について、ISAAC※よりも精度の高いアウトカムメジャーを検討中。 	

※ ISAAC: The international study of asthma and allergies in childhood

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 北海道ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【責任体制、指揮系統の明確性・適切性、情報共有体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌地区で毎週事務局会議を開催しており、議題の半分は北海道ユニットセンター全体に関するものである。その日のうちにサブユニットセンターに資料を送付して情報共有することを徹底している。 ・札幌地区では毎週RC会議を開催している。 ・旭川地区では1日2回、RCが報告を行う時間を設けている。 ・北見地区ではRCが毎日朝と昼休みに打ち合わせを行い、月1回全員で会議を行っている。 ・その他、札幌からの出張及びweb会議により、旭川・北見両地区には十分情報が伝わっている。 ・全北海道地域全体として北海道ユニットセンターに1つ、各サブユニットにそれぞれ3地区の地域運営協議会を設置し、3地域の自治体すべてから地域運営協議会メンバーとなり、自治体との連携を図っている。 <p>【マンパワーの適切性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療時間に比べてRCの勤務時間が短く、声かけ等に漏れが生じている地区がある。 <p>【調査地域における協力体制上の課題】</p> <p>＜自治体の協力体制＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域運営協議会を今冬に開催予定。調査の進捗状況を報告する。 ・札幌地区では、北区、豊平区に対して定期的に進捗状況を報告することにより、保健センターの協力がより得られるようになっている。 <p>＜協力医療機関の協力体制＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌、旭川、北見ともに、協力医療機関の担当者にむけての伝達や研修を必要に応じて行い、一層の情報共有を図っていく。 ・札幌地区は新たなクリニックが増えているので、今後声かけしていきたいと考えている。 ・旭川・北見両地区は全医療機関が協力しており、十分な協力体制が確保できている。 	
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <p>＜札幌地区＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に母子手帳交付窓口にてリクルートを実施し、補助的にRCが一部の医療機関においても院内リクルートを行っている。 ・都市部特有の問題で、対象地域(北区、豊平区)以外の病院で出産するケースも多くあり、札幌市内全体及び隣接の石狩市を含む34医療施設参加(対象地域の分娩医療施設は100%カバー)の下、対象地域における母子健康手帳交付者の7割をカバーしている。 ・さらなる協力医療機関の追加については、もともと札幌市内全ての63医療施設に参加をお願いした結果、現在の石狩市1施設を含む34医療施設に協力していただいていることから、困難な状況。 	<p>○ リクルート目標数には達していないが、現状分析に基づき具体的な改善策が検討されており、今後、リクルート数の伸びが見込まれる。</p>

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
2 リクルート(続き)	<p>・声かけ率50%の理由として、里帰りが10%、妊婦の家族などが母子保健手帳を受け取るのが7%おり、また、説明を受ける時間がないとして断る妊婦がいることが一因と考えられる。豊平区の保健センターでは、他の事業とバッティングして声をかけにくかった時期もあった。</p> <p>・当初、保健センターの担当者が声をかける人を選別していたが、選別せずすべてに人をRCに回すようにしてもらうことで声かけ率が改善した。</p> <p>＜旭川地区＞</p> <p>・医療機関にRCを配置し、院内においてのみリクルートを実施。</p> <p>・旭川市内の全13分娩施設が参加。</p> <p>・RCが6時間勤務となっており、午後や夕方には声をかけられない。</p> <p>＜北見地区＞</p> <p>・北見市及び4町の母子健康手帳交付窓口でリクルートと並行して、北見市内3医療機関で院内リクルートを実施。</p> <p>・北見市内の全3分娩施設が参加。</p> <p>・地域のエコチル調査への理解が進むことにより、平成23年8月以降、リクルート率が上昇。このペースを持続できれば、目標達成ができる見込みである。</p> <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <p>＜札幌地区＞</p> <p>・保健センターだけでなく、出張所に届出する妊婦についてもリクルートし、参加に結びつく手立てをとる。</p> <p>・RCは勤務時間が限られた主婦が多いので、今後は、学生等を活用するなどして、土曜日や夜間のリクルートを進めていく。</p> <p>＜旭川地区＞</p> <p>・市全域を対象地区とすることで、リクルート率を上げる。</p> <p>・新たに市役所での母子健康手帳受渡し時に妊婦の関わりを持てるようにしていく。</p> <p>＜北見地区＞</p> <p>・冊子を作成して、広報活動を進める。</p>	<p>○調査対象者への声かけが十分でないことにより、リクルートの十分な確保が困難となっていることから、体制を整備し対応することが望ましい。</p>
3 フォローアップ	<p>【フォローアップ状況の把握】</p> <p>・妊娠中期の調査票は自宅に郵送している。記入後、受診医療機関に持参してもらい、回収率は9割となっている。</p> <p>【今後発生しうる課題(調査地域内の協力体制等)】</p> <p>・リクルートのため、医療機関にRCを配置するので、それに伴ってフォローアップも拡充するものと見込まれる。</p>	
4 調査内容(詳細調査を含む)	<p>・調査協力を希望する父親への対面説明の徹底するため、土日や時間外に対応する工夫が必要。</p> <p>・転院や救急搬送など変則的な対象者移動への対応の流れを確立することが必要。</p> <p>・フォローアップ調査に向けて、ユニットセンターにおける準備を想定して、対処方法を検討することが必要。</p>	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
5	データシステムの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者の習熟により調査票の入力作業の正確さと迅速さが改善し、遅延の消化を進めている。 ・調査票の入力状況を把握しながら、人員配置を考慮し、できるだけ早い時期に入力遅延分の調査票の完全消化を図る。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・検体回収情報は一元管理し、センター内および回収業者とで情報を共有する管理・連絡体制を作った。 ・分娩が本格的に始まり、十分な対応がとれない場合がある。 ・母体搬送など、急な転院の情報について、ユニットが把握していない事例があった。 ・参加者が少ない医療機関は生体試料の採取手順・方法について覚えにくい、事務局と電話連絡を適宜行うことで速やかに対応。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバンス研修の内容をユニット内で共有するようにした。 ・札幌での研修内容を旭川、北見サブユニットへも配信し、研修材料として利用したり、出前研修を行うなど、各サブユニットが協力しやすい環境を整備。 	
8	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットセンター独自に、事業担当者向け、協力医療機関向けのマニュアルを作成、配信。 ・今後、インシデント・アクシデント報告の月間、年間の集計と原因分析を行い、調査の進捗にあわせてリスクの洗い出しを検討。 	
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・地元新聞やラジオ番組、産科医・小児科医が集まる集会、市民公開講演会等についてエコチル調査を紹介。 ・調査開始後は、対象地域保健センターで母親学級(月1回)や妊婦向けのイベント(3-4カ月に1回)、母子衛生研究会主催妊婦向けセミナー(月1回)、幼稚園父母会(1回)等におけるでのPR活動を継続的に実施している。 ・北海道ユニットセンター独自のロゴマーク&キャラクターを作成し、リクルート時のグッズを配布。 ・母子衛生研究会主催「プレママわくわくセミナー」(全札幌市の妊婦対象)において、参加者約20%が「エコチル調査を知っている」と回答。 ・今後、対象者となる妊婦やエコチル調査参加者による、参加型イベントの開催を検討。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道ユニットセンターを構成する北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学、日本赤十字北海道看護大学の4大学及び3地域の協力医療機関51施設のうち、倫理委員会がある13施設の協力医療機関にて倫理申請を行った。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
11	追加調査	<p>【全体調査への影響の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道ユニットセンターとしてのモチベーションを維持するためにも、追加調査を進めたい。ただし、リクルートや全体調査に影響がないようにすることは心がけていきたい。 	
12	委託契約	<p>【創意工夫による運営コストの低減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の公益性、長期性を踏まえて北海道大学と調整し、レンタルスペースを賃借について効率化を図っている。 ・各サブユニット間でWEB会議を行い旅費及び時間を節約している。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 宮城ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制		
2	リクルート	<p>【リクルートの進捗が良好な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルート数は、2年半で目標を達成する見込みである。 ・100%声掛け達成しており、RCがカルテの住所を確認し、調査対象地域の妊婦が来院した場合、RCに声をかけてもらうよう医療機関と手順を決めている。 ・自治体職員が、母子健康手帳配布窓口においてエコチルへの参加を推奨している。 <p>【リクルートを増やすための改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルートのノウハウをユニットセンター内で共有できるよう、RCのシフトを検討している。 	<p>○ 自治体や医療機関、地域医師会等との連携が十分図られ、毎日のリクルート状況をスタッフが速やかに集約・情報共有できる体制が整っていることなどから、リクルートが順調に進められ、目標数を上回る状況を維持している。</p>
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・接触拒否の主な理由として、質問票の量が多すぎる事が挙げられる。 ・3月～7月は、震災による影響のため、生体試料の採取ができなかった事例が多い。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<p>【周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員陣が、週に1回各地区訪問。地区内では週1回以上ミーティング。 ・ユニットセンター実務担当者のWEB会議を各地区で見ている。 	
5	データシステムの 運営	<ul style="list-style-type: none"> ・各サブセンターに入力担当者を採用する予定であり、今後、入力作業が進んでいくと考えている。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・RCは、業務用PHSを持っており、不適切な対応があった場合、ユニットセンターにすぐに連絡する体制となっている。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ研修、RC研修を適時実施。スタッフの新規雇用者があるごとに講義とDVD聴講にて行っている。 	
8	リスク管理・危機 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことでもインシデントレポートを作成し、各事務所間で情報を共有し、同じことを起こさないよう注意を払っている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城ユニットセンターの略「MUC」より、ガチャピン・ムックにロゴキャラクターになっていただいた。登録開始前より、各医療圏を訪問し、調査についてPRしたり、医療機関、自治体、RCの一体感を持てるようピンバッチを作成し、周知に心掛けた。 ・認知率調査では、広報活動開始3ヶ月後に認知率が2.8%から21.4%に上昇したことを確認。行政窓口が落ち着いたところで、次回の認知度調査を予定。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・症例登録票、アンケートの取り扱い等においては、保管責任者の指導のもと、施錠可能な個室内、鍵付きキャビネットに保管。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・12月より順次開始。開始後、毎週リクルート率、追加調査の同意率、フォローアップ率を電子的に把握し、3か月ごとにコアセンターに報告する。 ・リクルート率、追加調査の同意率、フォローアップ率に負の影響が生じる際には速やかに追加調査の声がけを中止し、原因検索を行うこととしている。 	
12	委託契約	—	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 福島ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルートを協力医療機関のRCが行っているため、ユニットセンターのRCがどのようにサポートしていくかが課題となっている。 ・相双地区での調査実施については、現況をふまえ検討していく。 	
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関で多数のRCがリクルートを行っており、声かけ数や対象者数のデータについて、具体的な数字が把握できていない。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適格者にはすべて声をかけるように徹底したい。 ・ユニットセンターと協力医療機関の連携強化を図る。 ・協力医療機関RC間の連携交流(情報交換及び交流会開催)。 ・医療機関RCのエコチル調査に関する意義の理解とモチベーションの維持。 ・参加者同士の口コミを増やすための対策が重要。 ・不同意理由等を随時分析し、効果的なリクルート活動について検討していく。 ・放射線影響について関心が高いことから、不同意者も対象にした放射線に関する講演会を実施。引き続き放射線影響を考慮した活動をしていく。 <p>【リクルートの進捗が良好な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月、8月、9月のリクルート数は良好であった一因とし、伊達郡が調査地区に加わり、中後期の妊婦をリクルートできたことが考えられる。 ・医師が熱心であるとRCも熱心である傾向がある。また、主治医の先生が妊婦に対して、説明を聞いてくださいと言声を掛けるのが効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災の影響もあり、リクルートが芳しくない状況にある。 ○ リクルート数の確保を図るため、声かけ漏れをできる限り減らしていくことが望まれる。そのため、医療機関ごとの声かけ率の把握をきめ細かく行うことが望まれる。 ○ 協力医療機関の職員がRCとしてリクルートを行っており、そのサポートについて検討を進めることが望まれる。
3	フォローアップ	<p>【今後発生しうる課題(調査地域内の協力体制等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難者、転居者の増加による連絡先の不明者が増加。ポスターなどを活用し引き続きフォローをしていく必要がある。 調査地区追加によるリクルート数増加があり、スタッフ補充により、円滑な事務処理に努めている。 ・取りやめ21名(そのうち、避難・里帰り20名)。役場でも所在がわからない不明者が1名。(平成23年12月現在) <p>【相双地区のリクルート再開について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相双地区居住者のリクルートは中断していたが、避難先で再開を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災後、避難や転居による連絡先の不明な者が増加しており、フォローアップの方法を検討することが望まれる。

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<p>【マニュアル等が変更になった場合のRCや協力医療機関への周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各協力医療機関にいるRCの責任者に周知する。 ・ユニット独自のマニュアルや参加者チェックリストを改訂し、協力医療機関に配布している。 ・ユニットセンターのRCが週1、2回の巡回時に周知している。 <p>【医療スタッフが変更になった場合の調査内容の周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代行研修を適宜開催している。 <p>【協力医療機関の実施状況の定期チェック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1、2回の巡回訪問とチェックリストにより実施状況を確認し、協力医療機関からの質問に対応している。 	
5	データシステムの運営	<p>【データシステムの設置・運営状況(人員、管理等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務職員6人、派遣職員2人の計8人で対応している。 ・調査地区追加によるリクルート数増加があり、事務処理に遅れが生じていたが、スタッフ補充により、円滑な事務処理に努めている。 ・独自の参加者管理システムのデータ・バックアップ方法が課題となっている。 	
6	生体試料の採取	<p>【不適切な対応があった場合の対応手順、対応記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント報告書を作成し、コアセンターに報告、指導を得ている。その後、原因の分析と対策を検討している。 ・コアセンターからの注意事項についても、その都度各医療機関へ配布・説明し注意を喚起している。 ・不適切な検体採取が確認された場合は、他の医療機関にも周知し、同様の事例発生防止に努めている。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代行研修では、ロールプレイングで、隣同士が互いに説明を実施。 ・RCが参加者の不安を受け止められるように、妊婦が不安に思っていること(例:放射線)に対してタイムリーに研修を行っている。 ・調査参加者の他、協力医療機関の受診者、スタッフに対し、協力医療機関で活動内容を伝えている。 	
8	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関のRCがリクルート実施していることから、ユニットRCが定期的に巡回し、フォローを行っている。 ・早急にクレームに対応し、納得していただけるよう努めており、1回のクレームで終了している。トラブル等については、その都度インシデントレポートを作成し、同様の事例発生防止に努めている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地区を回るラッピングバスとワイドバスに広告を出している。直接バスに乗らない住民に対しても、視覚によりイメージを浸透でき、広報効果が期待できる。全県版となる新聞広告よりも、効率的と考えている。 ・タウン誌にエコチル通信を連載し、調査参加状況を掲載している。 ・「子育て応援ポスター」を作成し、フォローしていく姿勢を示している。 ・地元企業に声をかけて、エコチル調査全体の企業・団体サポーターに登録してもらっている。(登録数2件) ・放射線影響も考慮しながら、新聞・テレビCM等の全県的な広告媒体の利用については慎重に対応している。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・随時個人情報の保護について指導を徹底していく。 ・12月にリスク管理についての研修を予定。 	
11	追加調査	—	
12	委託契約	<p>【創意工夫による運営コストの低減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見積もり合わせによる、より安価な購入先の選定。 ・裏面使用による紙資源の有効活用。 ・時間内勤務の励行及び適正人員配置による超過勤務の削減。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 千葉ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【調査地域における協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関と自治体には、センター長が3ヶ月に1回、RCが毎週訪問している。 ・千葉県内の医療機関では震災への対応が夏ごろ見られたが、12月以降はエコチル調査の業務もフルに動けるようになるであろう。 ・首都圏にあることからコアセンターからの見学の要望を受け入れたり、海外からの視察も受け入れている。 	
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災の影響のため、医療機関において被災者救援活動が最優先となったことなどにより、春からのリクルートが進まなかったが、秋から元の状態にもどりつつある。 ・当初は母親に説明し、父親の承諾を得てから同意してもらっていたが、現在はその場でも同意を得るようにした。 ・当初、保健所において参加候補者に説明していると認識し、リクルートをすべき協力医療機関において説明が不十分なケースがあった。 ・協力医療機関スタッフが対象者を把握できず、RCへの引継ぎが十分ではなかった。 ・参加候補者の受診が多い、平日夜・土曜に対応できていない。 ・大病院は震災支援に対応していた。 ・エコチル調査そのものが知られていない。調査地区が一部に偏っているため、県全体にアピールができない。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同意率が向上し、リクルート率は順調に伸びていると自己評価している。 ・採血ができる有資格者をRCとして採用してきたが、地域的に看護師が足りないため、今後は無資格者の採用や事務職員の転用を考えている。 ・協力医療機関の意欲を高めるため、見学会(解剖実習)を開催し、好評を得ている。 ・協力医療機関で声かけの漏れを補うために <ol style="list-style-type: none"> ①母子健康手帳配付窓口(勝浦市)で調査対象候補者の母子手帳に目印(シール)をつけてもらい、協力医療機関にいるRCに引き継ぎができるようにする。 ②母子健康手帳配付窓口(千葉市緑区)にRCを常駐させ、ICを行い、その場で同意をとれるようにする。また、その場での同意取得が難しい場合、同意書をUCに簡単に送ることができるようUCの宛名を記入した後納郵便封筒と一緒に渡す。 	<p>○ RC数が比較的少ないことなどから、リクルートが芳しくなく、かなりの改善が必要な状況にある。医療関係の資格のない者や事務職員の活用によりRCを確保するなど、体制を強化することが望ましい。</p> <p>○ 土曜や夕方以降の診療時間外において、調査対象者への声かけが十分でないことにより、リクルートの十分な確保が困難となっていることから、体制を整備し対応していくことが望ましい。</p>

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
2	リクルート (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の協力医療機関で分娩が多い一宮町を対象地区に追加した。 ・自治体、協力医療機関の協力を得るために、大学教員による「出前講演会」を企画・開催 ・土曜日のリクルート体制の整備として、RCの配置の工夫を行い、調査対象候補者の多い医療機関(加藤病院)で土曜日(月2回)にリクルートを開始した。今後、土曜日のリクルートについては体制を整備して強化に努める。 	
3	フォローアップ	<p>【フォローアップ状況の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問票が未回収の場合は、手紙で送付のお願いをしている。 <p>【今後発生しうる課題(調査地域内の協力体制等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6歳、12歳時の調査について質問を受けることが多く、内容を早く提示できることが望ましいと考えている。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<p>【協力医療機関の実施状況の定期チェック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当のRCが毎週業務報告をメールで送付。また、毎週の全体会議で話し合いを行っている。 ・協力医療機関ごとのリクルート数をCRCミーティングで公表し、チェックを行うとともに、対策を話し合っている。 	
5	データシステムの 運営	<p>【入力遅延をなくすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、2名が専任、2名が併任で作業をしているが、今後は事務担当者を入力担当者にまわして遅延を解消することを考えている。 ・入力専門の人材を派遣職員として雇用し、入力に特化して作業を依頼している ・OCR機器を使うローテーションを決め、空くことがないように使用している 	
6	生体試料の採取	<p>【不適切な対応があった場合の対応手順、対応記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例をまとめた資料を作成して、定期的にすべての協力医療機関に配布して情報共有し、注意喚起している。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度、全体会議の後に研修を実施している。 ・協力医療機関を対象として、見学会(解剖実習)を実施して、好評を得ている。 ・協力医療機関にRCが出向いて研修を実施。 	
8	リスク管理・危機 管理	<p>【ユニットセンター内、コアセンター間のリスク管理・危機管理体制(緊急連絡網など)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコチル調査独自に緊急連絡網を作成しているほか、大学としての緊急連絡網もある。 ・独自の感染防止・事故防止マニュアルを作成している。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CRCが定期的に自治体と協力医療機関を巡回している。 ・参加者が500名を超えた際は、ユニットセンター長が現場を回って意識づけを行った。 ・参加者向けの「ボディマッサージとお茶会」、コンサートを実施あるいは計画中。 ・RCのブログを公開して、看護師や保健師が調査に携わっていることをアピールしている。 ・週1回の全体会議によりスタッフ間のコミュニケーションを図っている。 	
10	倫理的事項	<p>【個人情報管理状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員会議で個人情報保護について喚起している。 ・大学としての研修会も定期的に行われ、自己点検評価を求められている。 	
11	追加調査	<p>【全体調査への影響の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体調査に影響がないか、H24年明けからまずはパイロット的に少数の協力医療機関で実施する予定である。 	
12	委託契約	—	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 神奈川ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【責任体制、指揮系統の明確性・適切性、情報共有体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特任教員4名、事務員6名、RC12名 <p>【協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政(市役所)の担当者が人事異動で変わり、エコチル調査への理解が十分得られなくなるため、継続的な説明が必要。 	<p>○ RCの入れ替わりが多くあり、調査スタッフの安定的な確保や調査スタッフ間の情報共有の機会の拡充につとめるなど士気を高める工夫を行うことが望ましい。</p> <p>○ 行政の協力意識が低下しないよう、定期的に情報交換の場を持つなど、適宜働きかけていくことが望ましい。</p>
2	リクルート	<p>【リクルートの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関でリクルートを行っている。 ・母数に対して協力医療機関を受診する人が3～4割でしかなく、効率が悪いいため、母子健康手帳発行窓口での声かけを中止した。 ・エコチルHPに、父親用リクルート説明用のページがあり、父親のリクルート補助ツールとして活用している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関の妊婦のうち、過半数は対象地域外の人である。対象者が限定されるため、病院全体としてのキャンペーンが難しい。 ・都市部では、行政単位で母集団を限定するリクルート方法が困難な状況である。 <p>【年間分娩数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境に対する不安から、出産数が全国的に減っている可能性がある。 	<p>○ 都市部では協力医療機関において調査対象者以外の妊婦も多い傾向があり、医療機関内のリクルートが困難であることや、調査地区外の医療機関にも妊婦が分散して受診する傾向があることなどにより、リクルートが芳しくない状況にある。都市部のユニットセンターと情報共有を行いながら自己分析を行い、協力医療機関を増やすなど、具体的な改善策を見出すことが望ましい。</p>
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・調査開始当初見られた検体の凍結などのインシデントは減少。 ・同意撤回をする参加者も出てきているので、今後のフォローアップでの工夫が必要となる。 ・同意撤回の参加者の、今後のフォローアップでの工夫が必要。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<p>【マニュアル等が変更になった場合の周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期便で連絡事項を、RCに伝えている。RCチーフが、必要に応じて説明している。 ・2か月に1回、RC全体ミーティングを開催。 	
5	データシステムの 運営	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力者が事務局に届いた調査票の入力を行っており、現時点で遅延なし。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切な採取があった場合には個別に対応し、コアセンターへ報告を行い、必要であれば医療機関に改善を求めている。 ・業務用携帯電話をRCは持っており、何かあれば、RCチーフに電話連絡する体制となっている。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTトレーニングを行っている。 ・調査開始時のRCの退職が多かったが、医療関係の資格のない人も採用し、最近は離職がなく安定している。 	
8	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者を置き、報告事項があった場合には、速やかに報告する体制を整えている。 	
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・駅広告や、育児支援センターでの広告を実施。 ・2012年1月28日に、エコチル1周年に合わせて、新聞チラシを入れる予定。 ・2011年12月、2012年1, 2, 3月にタウンニュース(新聞で配布される)でエコチルの記事掲載予定。 ・2か月に1回、エコチル調査参加者に、エコチル通信を発行。 ・地域連絡協議会に、エコチル調査参加者代表を加える予定。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報、鍵のかかった場所に紛失などがないように保管。 	
11	追加調査	—	
12	委託契約	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩数の少ない3か所の協力医療機関に対しては、病院スタッフにRC業務をしてもらうことにより、効率化を図った。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 甲信ユニットセンター(山梨)

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見	
1	実施体制	<p>【責任体制、指揮系統の明確性・適切性、情報共有体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特任教員5人配置。 ・事務員5人配置。当初は2人であったが十分ではなく、採血キットを協力医療機関に送るのが煩雑なため事務員を補充した。補充によりデータシステムへの入力がかかりリアルタイムとなっている。 ・月1回、サブユニットとウェブ会議を開催している。 ・RCには週1回ユニットセンターに寄ってもらい、また、月1回、情報交換会を開催している。 <p>【マンパワーの適切性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCは16人おり、すべて有資格者である。 ・病院については、1協力医療機関につきほぼ2人体制であるが、休みが取れないため、ユニットセンターに常駐するRCを配置するなど、調整が必要と考えている。 ・土曜日は、調査地区内の協力医療機関は休みとなるためリクルートは不要。 <p>【調査地域における協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関は13あり、産婦人科医会を含め、協力体制が構築されている。 ・地域運営協議会では、保育園、幼稚園の協会長から積極的に発言をもらい、ポスター掲示やシンポジウム開催にあたって協力を得ている。 ・サブユニットとの関係構築にあたり、学長の協力のもと事務局の場所を提供してもらったりと、大学をあげた協力体制ができています。 	
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関別に月当たりのリクルート目標数を設定し、現状の達成率は9割である。 ・常勤のRCがないクリニックが目標を達成していない。 ・調査対象地域における分娩数が年々減っているため、カバー率は達成できても、実数が足りないことが考えられる。出産数の減少については、出産施設がない市があることの影響も考えられる。 ・同意率は8割を保っている。 ・妊娠届出日が決まっている自治体が3つあり、その日にRCを配置しているが、妊婦の半分は受付日以外に来る。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は、同意書を持ち帰ってもらっていたが、できるだけその場で同意してもらうようにした。 ・病院の妊婦は100%捕捉している。クリニックにRCが出向いてリクルートするか検討中である。ただし、クリニックにRCを常駐させるのは非効率的である(病院ではリクルート以外のRC業務もあるため)。 	<p>○ リクルートは概ね順調に進んでいるが、目標数には達していない状況にある。医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされている。</p>

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
2	リクルート (続き)	<p>【リクルートの進捗が良好な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadによる説明が、RCが自分達で資料を替えやすく、データの確認もできるため効果的である。 ・子どもを連れて対象者がいた場合は、説明中お子さんにビデオを見せている。 ・主治医の先生から対象者に小冊子を渡してもらい、RCの説明を聞くよう声をかけてもらっているのが効果的である。 ・自治体RCがないときに妊娠届出にきた対象者には、電話での接触などを行っていいかどうかについて、自治体担当者(RCではない)が個人情報提供に関する同意を得て、後から電話や手紙で連絡できるような体制としている。 	
3	フォローアップ	<p>【フォローアップ状況の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCが常駐している病院では、参加者一人ひとりにエコチルカルテ、カルテ等回収時連絡票、実施状況確認票を作成して進捗状況を管理している。 ・クリニックでは、クリニック受診参加者一覧表とスケジュール台帳を作成してUCで一括して管理。UCスタッフが週1回訪問して、質問票等を回収し、実施状況確認票を作成して進捗状況を管理している。 ・RCがつけた日報を、同意書、質問票などと一緒に、週1回ユニットセンターにもってきてもらい、回収数等を管理している。 ・質問票の回収はほぼ100%である。 ・母体搬送、新生児搬送に対応した搬送マニュアルを作成し、転院に対応している。 ・週の終わりを進行管理の日と定めて、フォローアップ状況を確認し、週明けに謝礼を郵送している。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票の内容について、RCからユニットセンター経由でコアセンターに問い合わせを行い、その都度確認を行っている。 	
5	データシステムの 運営	<p>【データシステムの設置・運営状況(人員、管理等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCが回収物の種類や数を日報に記録し、回収状況をチェックしている。UCでの確認者が受領印を押す仕組みとすることで、万が一紛失しても、どこで紛失したかわかるようにしている。 ・記載内容が読みにくい時は、入力担当者からRCに連絡する体制となっている。 <p>【入力遅延をなくすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6m(生後6ヶ月)調査のデータ入力に対応して、人員を1人追加している。 ・データシステム入力時には、ファイル添付の仕方を工夫して効率化している。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット等の細かい情報をRCからきちんとあげてもらっている。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修及び事務局とRCとの情報交換会をこれまで8回行っている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
8	リスク管理・危機管理	<p>【トラブル発生時における対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故報告書は内容を分類して記録を管理している。 ・問い合わせ窓口電話の対応記録やマスコミ対応記録、取材記録を残している。 	
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有名なキャラクターを広報資材に活用している。 ・参加者による口コミをねらって、対象者の出産祝いとしてセイフティサイン(ベビーインカーシール)を配布している。 ・記事にしてもらうように、定期的に地元プレスに投げ込みを行っている。 ・子育てNPOによるイベントや地元サッカークラブの試合時にブースを出している。 ・毎月、運営協議会のメンバーに調査の進捗状況を伝えるセンター通信を送付している。今後は参加者に送るものを検討していきたい。 ・上記セイフティサインとともに、出産祝いとして「子どもの病気・けがノート」を配布している。 ・ユニットセンター独自のフォーラムを春と秋に実施していく。調査により何がわかったかを発表していきたい。 <p>【認知度調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニター会社のパネルを利用した認知度調査により県民の20%が認知していることが把握できた。 ・参加者にはRCがリクルート時に認知状況を聞いている。調査開始時には妊婦の50%に認知されていたが、予算の制限により広報活動が縮小したら、40%になった。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・追加調査が承認され次第、倫理委員会へも申請し、承認を受ける予定。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・全体調査に影響を与えない追加調査について、継続して検討中。 	
12	委託契約	<p>【創意工夫による運営コストの低減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制を充実させたまま、他でコストを削減したいと考えている。 ・広報にも力を入れたいので、人員の入れ替わり時に生じた経費で行ってきたい。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 甲信サブユニットセンター(信州サブユニット)

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1 実施体制	<p>【マンパワーの適切性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCは大学雇用が10人(フルタイム換算で4人)、協力医療機関雇用が1人。他のRCは協力医療機関の看護師等である。 ・今後は入力事務の人員を増やしていきたい。 <p>【調査地域における協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と大学のつながりが非常に深く、産婦人科会等で定期的にやり取りし、リクルートについても相談できる関係にある。 ・幼稚園、保育園にもすべて回り、ポスターやバッジを配布して協力を求めている。保育士にバッジをつけてもらって調査を宣伝しているほか、リスク管理の一環として、保育士から地域の情報を収集する仕組みを作っている。 	
2 リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけ自体が十分ではなかった。 ・里帰りや助産師による出産があることを踏まえて、分娩数は1200ぐらい(H22実績、1246件)と見込んでいたが、現状はもっと少ない。3.11後は出生数が下がることも念頭に、今後注視していく必要がある。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学別・エリア別に達成状況を把握している。 ・声かけが足りない原因を分析し、受診の多い土曜日にRCを配置、働いている女性声かけをためらっている医師に対してすべて声を掛けていただくよう依頼するなど、協力医療機関ごとに問題を解決した。その結果、週ごとの目標数を達成できるようになった。 ・自治体の意識が低下しないように、行政窓口へ再度協力を依頼し、首長に声をかけている。 <p>【リクルートの進捗が良好な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同意保留のままの人がいないようフォローアップしている。 ○協力医療機関ごとに同意率の週間統計をとって分析している。 ○リクルート時には紙芝居を使ってわかりやすく説明している。 	<p>○リクルート目標数には達していないが、医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされている。リクルート数をさらに確保するため、すべての調査対象者への声かけを徹底することが望ましい。</p>
3 フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ者数を確保するために、ベースは共通であるが各協力医療機関において適切な管理方法を工夫した。 ・フォローアップが確実にいえるように協力医療機関間および甲信サブユニットセンターとの連携を強化している。 	
4 調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関において調査に関する不明瞭な事項が発生した場合には、甲信サブユニットセンターを通してコアセンター等、適切な部署に問い合わせし、アドバイスを受けている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
5	データシステムの運営	<p>【入力遅延をなくすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状ではパートタイム職員が担当しているが、いずれフルタイム職員を雇用する予定である。今年中にはストックをなくす予定。 ・入力数をグラフ化し、進捗状況を把握している。 	
6	生体試料の採取	<p>【不適切な対応があった場合の対応手順、対応記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルがあった場合、直接連絡がセンター長に入るような体制となっている。 ・ヒヤリハットを多めに拾うようにしている。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター勉強会を月一回、RC研修会を隔月に一回開催している。 ・RC研修会では、RCから情報が出せるような雰囲気づくりに努めており、意見が上がってきている。 	
8	リスク管理・危機管理	<p>【ユニットセンター内、コアセンター間のリスク管理・危機管理体制(緊急連絡網など)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長等の緊急連絡先を室内に掲示している。 ・関連する自治体関係者の連絡先を常にアップデートしている。 ・センター長をはじめとするユニットセンタースタッフとRCが、エコチル専用の携帯電話を常に持っている。 ・ヒヤリハットを必ず情報共有している。 	
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長直通のアドレスを記したカードを配り、苦情や要望が届くようにしている。 ・FM放送やメールマガジンで、調査への意見を募集している。 ・キャラクター募集コンテストを行うことで、地域の媒体にエコチル調査の名称が掲載されている。全国誌である「公募ガイド」にも無償で掲載されている。 <p>【認知度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルート時に認知度調査を行っている。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の適切な管理の為に、施錠を確実に行うとともに、部外者の入室管理に配慮している。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査との関係を見ながら追跡調査内容の決定及び申請を行ってゆく予定。 	
12	委託契約	<p>【創意工夫による運営コストの低減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無償でできるイベントに参加して広報活動を行っていく。 ・コンテストで独自のキャラクターを募り、コストを削減する。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 富山ユニットセンター

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1 実施体制	<p>【責任体制、指揮系統の明確性・適切性、情報共有体制】 ・適宜、RCの情報交換会を行っている。(これまでに5回開催)</p> <p>【マンパワーの適切性】 ・36人のRCを配置。 ・パートタイマーを希望するRCが多いため数が多い。曜日や時間帯など細かく割り当て、協力医療施設に常駐する体制をとっている。 ・協力医療機関から、RCについて、全員医療関係の有資格者(看護師、助産師、保健師のいずれか)であることを求められている。</p> <p>【調査地域における協力体制上の課題】 ＜自治体の協力状況＞ ・母子手帳を妊婦に渡す時に、担当者から一声かけ、エコチル調査のチラシとマンガによる説明書を渡してもらっている。</p> <p>＜協力医療機関の協力状況＞ ○協力医療施設の医師が調査対象者に該当するか判断し、院内のRCに紹介する仕組みとなっているため、RCにすべての調査対象者が回ってこない。大規模な分娩医療施設で紹介率が40%と低い。</p>	
2 リクルート	<p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】 ・協力医療機関の医師の意識をあげるため、継続して説明を行っていく。 ・RCを協力医療機関に常駐させているため、RCと医師との信頼関係を築く方策が必要とされる。 ・同意率を上げるために、RCに対し、ロールプレーなどのスキルアップ講習の実施を予定している。 ・医師によるふるい分けをしない院内リクルート方法を検討する。また、看護師等の有資格者以外でもRCに従事できないか、協力医療機関と調整する。 ・対象地域である富山市と黒部市の間にある魚津市(平成22年出生数:324)は分娩施設がなく、ほとんどが富山市と黒部市の分娩施設にて出生し、現在の実施体制でリクルートおよび調査が可能のため、魚津市を調査対象地域として追加することを検討。 ・11月に開院した医療機関に協力を依頼したい。</p>	<p>○リクルート目標数には達していない状況にあるが、分娩数の多い大規模病院や新規開院との協力体制の構築、RCと医師との連携の強化、RCのスキルアップ等の今後の改善策により、リクルート数増加が見込まれる。</p>

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
3 フォローアップ	<p>【フォローアップ状況の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCが、協力医療機関において、フォローアップシート(紙媒体)や電子カルテでフォローしている。 ・ユニットセンターからは、情報交換会でRCに未回収分を伝えている。 ・追跡率を確保するため、富山ユニットセンターで独自にニュースレターを年1～2回発行し、定期的に配信することにより関心の継続を維持する予定。 	
4 調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・統一したリクルートを行うため、コアセンターより示されるQ&A等は、速やかに協力医療機関及びRCに周知し、遺漏のないよう行っている。 	
5 データシステムの 運営	<p>【入力遅延をなくすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員を増やし、データ入力作業を鋭意実施している。 ・入力の進行状況をモニタリングするようにしており、改善が見られる。 	
6 生体試料の採取	<p>【不適切な対応があった場合の対応手順、対応記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切な事例は、ユニットセンターからRCに情報提供を行い、RCから協力医療機関スタッフに伝達。RCの情報交換会でも周知する。 ・どんなことでもスタッフ共有ノートに記録を残すようにしている。 	
7 研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自にSOPを作成している。 ・RC雇用時には研修会を実施し、修了証を発行している。協力医療機関スタッフにも研修会を実施し、修了証を発行している。 	<p>○ RC間のコミュニケーション不足が懸念され、定期的に情報交換会を設けるなど、現場の課題やRCの経験を共有する機会を拡充することが望ましい。</p>
8 リスク管理・危機 管理	<p>【トラブル発生時における対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでもRCが携帯電話でユニットセンターに連絡し、記録に残している。これまで特に大きな事案はない。 ・当初、協力医療機関で検査に待たされることへのクレームもあったが、今は対応する人を配置して解消している。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体等が主催するイベント(母親教室、パパママセミナー)や市民講座でエコチル調査の紹介及び参加の呼び掛けを行っている。 ・協力医療機関の待合室でDVDを流している。 ・エコチル調査のラッピング広告バスを対象地域の路線に絞り、4台走らせている。調査対象地区中心の路線を選べるのがメリットである。自動車利用者の多い地区では効果的ではないか。 ・無料で参加できるイベントには積極的に参加している。 <p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郵便局に、ポスターを貼らせてもらえないかアプローチする。 	
10	倫理的事項	—	
11	追加調査	<p>【全体調査への影響の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都大学、鳥取大学及び富山大学の3大学による「黄砂」が及ぼす人体への影響についての追加調査研究を開始しており、全体調査への影響を評価するため、3か月ごとに実施状況報告を作成する。 	
12	委託契約	<p>【創意工夫による運営コストの低減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少ない経費でより効果的な地域への広報活動と参加者の意識の継続を目的として、車用ステッカーを出産時に参加者へ配布する。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 愛知ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【責任体制、指揮系統の明確性・適切性、情報共有体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011/11/22現在、特定教員2名、RC11名、事務員8名。 ・RCの増員を計画している。 <p>【マンパワーの適切性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルート改善策を実施するにあたり、RCの増員が不可欠である。 ・今後、医療資格者を持たないRCを採用することにより人件費削減とRC増員を図る計画である。 <p>【協力体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の拠点病院を、RCの拠点として、業務の効率化を図っている。 	<p>○ RC数が比較的少ないこと等から、リクルート目標数に達していない状況にある。必要な人員を確保することが望ましい。</p>
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所(母子健康手帳発行窓口)において当初リクルートを行っていたが、4割弱の妊婦が受診する調査地区外産科医療機関を協力機関とする人員体制が組めず、また、協力医療機関受診者の同意率も50%以下であったため、2011年6月から保健所では「エコチル調査の情報提供」に注力し、医療機関でのリクルートを後方から支援する形に変更した。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関別に年間分娩数、声かけ率、同意率のデータがあり、自己分析を行い改善策を立案している。 ・特に、声かけ率が低い病院がいくつかある。1例として、A病院は分娩数が多いが、当初、非協力的な病院であった。現在、少しずつ協力的になっており、2011年12月から土診(夕診)をカバーする計画であり、声かけ率の向上が期待される。 	<p>○ 協力医療機関ごとにリクルートの状況をきめ細かく把握し、改善策を検討していることは評価される。これらの改善策を踏まえ、声かけ率の低い医療機関に対して重点的に対策を講じ、リクルート数を確保することが望ましい。</p>
3	フォローアップ	<p>【フォローアップ状況の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期の調査であるため、参加者から参加してよかったと感じてもらえるような方針で進めている。実際、参加してよかったという評判を得ている。 ・質問票調査において、未記入欄があった場合、参加者とコミュニケーションができる良い機会と考えている。 <p>【今後発生しうる課題(調査地域内の協力体制等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩時は転院するケースが多く、連絡業務が多くなりマンパワー不足が懸念される。 ・各医療機関での採取忘れが懸念される。参加者スケジュール管理システムの構築を検討中。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを利用したメール連絡、RC事務局会議での口頭連絡など、複数の連絡手段で、連絡している。 ・RCが休暇が取得できるように、1つの協力医療機関に複数名を配置したチーム制を採用している。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
5	データシステムの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力の進捗状況を、質問票回収数・入力数・未入力数の複合指標でモニタリングして管理している。 ・医療機関別の同意者数・声かけ数のモニタリングも行っており、現場RCからの意見と併せ、各医療機関の状況把握を多面的に行っている。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・検体採取時や提出時の不備に対応するとともに、文書通達やiPad通信による全医療機関への周知徹底を図っている。 ・採取者のスキルアップや、採取忘れの生じないシステム作り(医療機関スタッフとRCの密な連携とスケジュール管理)を図っている。 ・人的エラーによる検体の採取忘れの防止や転院等イレギュラー事象へのミスのない対応を講じている。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に行うRC連絡会議の際、毎回、研修を行っている。 	
8	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理体制図、緊急連絡網、対応手順が整備されている。 	
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動はすべて自前で行っており、コスト削減を図っている。 ・リクルート医療機関の窓口担当者の設置や、エコチルクッキング、市民フォーラム、USTREAM、YOUTUBE活用等による情報発信を図っている。 ・認知度調査は、2011年8月30日名古屋市北区いきいき健康フェスタにおいて行い、23%との結果を得た。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・同意取得手続きおよび個人情報管理・セキュリティ管理について、継続的教育を実施。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・リクルートの状況が芳しくない中で、追加調査をスタートすることはできない。リクルートの改善策を実施し、2012年1月頃より、追加調査の開始を予定している。 	
12	委託契約	<p>【創意工夫による運営コストの低減策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、医療資格者を持たないRCを採用することにより人件費削減とRC増員を図る計画である。 ・広報活動はすべて自前で行っており、コスト削減を図っている。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 京都ユニットセンター

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1 実施体制	<p>【マンパワーの適切性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011/11/21現在、RCは、京都8名、木津川8名、長浜4名の計20名。 ・RCは、母子健康手帳発行窓口に常駐している。RCが常駐している協力医療機関においては、リクルートの他、採血や診察記録票の転記を支援。 	<p>○ 3地域における組織体制(責任体制、指揮系統の明確性、情報共有体制等)を整備し、調査スタッフの確保を含め、安定的な実施体制の確保に努めることが望ましい。</p>
2 リクルート	<p>【リクルートの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの医療機関で、リクルート場所と時間がないという意向が強かったため、母子健康手帳発行窓口で、分娩予定の医療機関を聴取し、協力医療機関で分娩予定の妊婦に説明を行っている。 ・同意書は、協力医療機関で回収している。 ・同意書が未提出者の追跡は、流産された方などに配慮して、行っていない。 <p>【声かけ率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけ率は、2011年9～10月で京都地区約70%、木津川地区約50%、長浜地区約80%と改善されている。 ・木津川地区が50%程度であるのは、計画時にA病院で70～80%が出産していると思われたが、現実には市外で出産する妊婦が多かったことによる。改善策として協力医療機関を増やすことが考えられるが、1医療機関あたりの分娩数が少なく、労力に対する効果が得られない。 <p>【同意率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけ数に対する同意率は、40%程度。 ・京都地区では、1か月半の時点で、同意書未提出者に対して、ハガキ郵送してフォローしている。 ・木津川地区では、1医療機関においてRCが再度声かけしている。同意書未提出者に対しては、説明時に反応のよかった方にTEL連絡してフォローしている。 ・長浜地区では、2医療機関においてRCが再度声かけしてフォローしている。 <p>【今後の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同意書未提出者に対して、各調査地域の実情に応じて、ハガキや電話、声かけにより再連絡を図っており、継続して行っていく。 ・医療機関の産科の受付に同意書の提出をうながすポスターを掲示させてもらう。 ・医療機関のスタッフからもっと声掛けしてもらうようお願いする ・主治医からの支援を検討する。 	<p>○ リクルート状況が芳しくなく、かなりの改善が必要な状況にある。</p> <p>○ 母子健康手帳発行窓口を利用して声掛けは概ね順調に行われているが、同意率が目標に達しておらず、同意率を高めるための改善策を講じることが望まれる。</p> <p>○ 同意書未提出者や質問票未提出者に対するフォローアップが十分でなく、改善が望まれる。</p>

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
3	フォローアップ	<p>【フォローアップ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011/11/15現在、M-T1採血371件、M-T1質問票307件、Dr-T1 409件。質問票未提出者の数が、採血に比較して多い。 <p>【フォローアップの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区で無料の育児相談を受け付けている。 ・メールによる情報提供を行っている。 ・協力医療機関ごとに、説明資料を作成している。 ・京都地区では、特定教員がRCに説明。RCが資材配布回収のため、協力医療機関を週1～2回訪問し、マニュアルの変更等の情報を、医療機関スタッフに説明している。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	—	
5	データシステムの 運営	<ul style="list-style-type: none"> ・京大オフィス、同志社オフィス及び長浜オフィスにおいて、各調査地域にかかるデータシステムを配置。 ・調査票のデータ入力に遅延が発生していたが、人員補充により改善してきている。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・生体試料採取に関する不明点やトラブルがあれば、ユニットセンターに連絡が入り、適宜適正に対応している。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・京都ユニットセンター独自の研修会に加え、協力医療機関の業務や産科外来の見学、スタッフ間でロールプレイなども行なった。 	
8	リスク管理・危機 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルが発生した際には、各現場の担当者から上記の責任者に連絡され、その指示の基で環境省やコアセンターに連絡するとともに、記録や報告書を作成する体制を構築している。 	
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・問合せ用の電話番号を設け、研修を受けた担当者が対応を行っている。問い合わせは、月に数件程度。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットセンターに保管される個人情報書類等は、セキュリティーロックされた建物と部屋の中の鍵のかかる収納場所に保管して、情報保護を行っている。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・8/1より追加調査のリクルートを開始している。主にT1の回答を終えた頃のエコチル参加者から、追加調査にも協力いただける方を募集しており、本体調査のリクルートへの影響はほとんどないと考える。 	
12	委託契約	—	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 大阪ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【協力体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルートは府立母子センターが進めており、公の組織が実施していることでうまくいっている。自治体も非常に協力的である。 ・府立母子センターから協力医療機関が遠いので、協力医療機関にRCの駐在所のようなものがあればよい。 	
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニットとしては非常に高いリクルート率を維持しているが、協力医療機関によって差がある。リクルートスペースがなく、日を限定してリクルートしなければならない医療機関もある。 ・医療機関別の声かけ数、同意率等の分析を行っている。 ・場所が確保されている協力医療機関ではほぼ100%説明でき、声かけにもれはない。 ・地域によって、同意率が高かったり、保留が多かったりする傾向がみられる。 <p>【リクルートの進捗が良好な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院職員がRCのところはリクルート率が高い。住所を見て全員に声かけを行っている。病院の受付デスクに対象となる地域名を大きく貼って、声かけに漏れがないようにしている。 ・阪大の系列病院がほとんどであり、ネットワークが築かれている。 ・府立母子センターと自治体との結びつきが非常に強い。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標数の達成に向けて、意識の維持が課題と考えている。 	<p>○ 医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされ、リクルートは順調に進められている。</p>
3	フォローアップ	<p>【今後発生しうる課題(調査地域内の協力体制等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、質問票が中心となった時、フォローの電話を掛けたりする事務職員の配置が必要。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	—	
5	データシステムの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・データシステム端末が増設され、質問票入力の遅延が解消できるように取り組んでいる。同意書入力については、遅れがほぼ解消されつつある。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットセンターにおいて各種手順を作成し、各医療機関・RCへ周知している。 ・依頼書やID等の不適正な取扱いについて、回収業者と連携を取って、適時対処しエラー発生に繋がらないように努めている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCを新規採用したら、2日かけて研修(off the JT)を行っている。その後、臨地研修(OJT)1～2週間。 ・医療関係者向けに研修を行っている。 <p>【今後の改善点・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは調査がうまくいくためのテクニカルな研修を行ってきたが、エコチル調査そのものへの理解を深め、モチベーションを高めるための研修が必要。 ・モチベーションをあげるため、全国レベルの意見交換の場も必要である。できれば来年度に一回開催してほしい。 ・近畿圏のユニットセンター(大阪、京都、兵庫、鳥取)で合同のRC意見交換会を開催する予定がある。 	
8	リスク管理・危機管理	<p>【トラブル発生における対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例をRCの意見交換会とともに、産科専門委員会に出している。 ・ヒヤリハットの事例を、スライドを使ってRCに視覚的に説明している。 	
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントやTVなど、地域に根差したメディアによる広報のほうが、浸透するのではないかと考えている。 ・広報活動を進める中で、家族から調査に参加することを止められるという声がなくなった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページをどう有効に活用するかが課題である。ホームページは、今後実施する調査の詳細を載せるなどに活用できると考えられる。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理に関する RCへの教育指導の徹底を図るため、「個人情報保護に関するRCセルフチェックリスト」を作成し、RC意見交換会で実施した。今後定期的にセルフチェックを行い、自覚を促していく。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・追加調査の承認が得られ次第、開始する予定。 	
12	委託契約	<ul style="list-style-type: none"> ・会議運営や物品購入など、効率的経費削減に努めている。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 兵庫ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【調査地域における協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定通り、協力医療機関との連携は進んでいる。 ・地域運営委員会を年に3～4回開催し、医師会には調査に理解いただいている。 ・大学の運営委員会を定期的で開催したい。 ・協力医療機関のスタッフによるリクルートが効果的であるが、業務上依頼することは難しい。 	<p>○ RCの入れ替わりが多くあり、調査スタッフの安定的な確保や調査スタッフ間の情報共有の機会の拡充につとめるなど士気を高める工夫を行うことが望ましい。</p>
2	リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間に受診する対象者への声かけの体制が不十分であり、また、夜間の声かけを了解しない医療機関もある。夜間の声かけを今後は増やしていきたい。 ・当初は、対象者は健診のみ実施しているクリニックから早めに分娩施設に転院すると考え協力を依頼していなかったが、出産直前まで検診のみのクリニックに通う妊婦もいることが明らかになってきたため、協力医療機関として増やしている。 ・妊娠初期のデータが必要であるから、出産直前の妊婦には積極的に声をかけていない。 ・保留者、不同意者から理由を聞いて分析をすることを考えている。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9～10月は声かけ数は増えていないが、同意率は向上している。RC同士で意見交換したことによる成果と考えられる。 ・夜間診療時のリクルートを増やしていきたい。 ・保留者に再度アクセスできるようにして、同意につなげたい。 <p>【リクルートの進捗が良好な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトコーディネーターのいる協力医療機関は同意率が高い。医師、助産師、看護師から説明していただくのが同意には効果的である。 ・5月にリクルート数が多いが、その時点で協力医療機関が増え、妊娠初期・中期の人が多くリクルートできたためである。10月にリクルート数が増えたのは、改善策が功を奏したと考える。 	<p>○ リクルート目標数に達していないが、分娩を取り扱わないクリニックにおけるリクルートを開始したことや、RC間の情報交換を図ったことにより、リクルート状況について改善の効果が見られている。さらなる課題の把握や改善策の実施が望まれる。</p> <p>○ 土曜や夕方以降の診療時間帯において、調査対象者への声かけが十分でないことにより、リクルートの十分な確保が困難となっていることから、体制を整備し対応していくことが望ましい。</p>
3	フォローアップ	<p>【フォローアップ状況の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ入力の作業について、OCRが当初一台だったこと、コアセンターの契約手続きが遅れたため雇用を進められなかったことなどから遅れていたが、これらが解消されたため進められる見込み。 ・転院者について、協力医療機関ではない医療機関にも協力を得て生体試料の採取をしてもらえることとなった。また、大阪ユニットや京都ユニットとも生体試料の採取等について連携しながら進めている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
4	調査内容 (詳細調査を含む)	—	
5	データシステムの 運営	【入力遅延をなくすための取り組み(改善策)】 ・質問票の入力が滞っているため、OCRや人員を増やして対応。	
6	生体試料の採取	【不適切な対応があった場合の対応手順、対応記録】 ・web会議で報告のあった事例をユニット内部で共有するようにしている。	
7	研修	【工夫している点】 ・協力医療機関のスタッフに研修を行ったうえで、サイトコーディネーターに認定している。 【研修上の課題】 ・アドバンスドコースの内容を月2回の定例会で共有するようにしているが、必ずしも理解されていない。ユニット全体で情報交換と共有が必要であり、そのような機会の設定を検討中である。 ・年明け頃を目途に、近隣ユニットとの意見交換と情報共有を図る機会を設けたいと考えている。	
8	リスク管理・危機 管理	【トラブル発生時における対応】 ・協力医療機関で些細な問題が発生した場合に、報告がないことがあった。今後は全て報告をするよう指導しており、徹底していきたい。 ・現場ごとのリスク管理マニュアルを整備していきたい。	
9	コミュニケーション	【工夫している点】 ・既にCM等出演いただいている尼崎市長にはさらなる協力をお願いしたいと考えている。 ・市の窓口では妊婦への配布物が多いため、エコチル調査のリーフレットが目立たない。配布物を入れるバッグを作ることを考えている。 ・ユニットのホームページに希望者の写真を載せるコーナーを設けている。また、希望者に、赤ちゃんの写真入りのカレンダーを作成し、プレゼントしている。 ・ユニット独自のポスターを作成し、地元の信用金庫に貼っていただく予定である。 【コミュニケーションに関する課題等】 ・ケーブルTVのCM、FMラジオに力を入れていきたいが、予算がなく十分に放送できない。 ・独自にイベントを行っても参加者が少ない。効果は少ないと思われる。 ・市広報にも記事を掲載してもらっているが、効果には限界がある。 ・参加者とのコミュニケーションについては、どこまでニーズがあるのかつかみかねている。現状では、コアセンターのコールセンターを案内している。	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
10	倫理的事項	・個人情報の扱い方法について、スタッフ全員に徹底して実施。	
11	追加調査	【全体調査への影響の状況】 ・基礎的な検討を進めている状況。全体調査が軌道に乗ってから追加調査を始めたい。	
12	委託契約	【創意工夫による運営コストの低減策】 ・全ての協力医療機関と委託契約を交わしている。	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 鳥取ユニットセンター

自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1 実施体制	<p>【調査地域における協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関とはすべて顔が見える関係であり、十分な協力体制が構築されている。月一回、地域の産婦人科医が集まり、その場で問題点を指摘してもらっている。小児科医との連携が将来的課題である。 ・自治体の広報面での協力が不足していたが、改善している。 ・参加者の移動が少ないため、今のところ住基台帳まで調べる必要は生じておらず、同意書と質問票で住所を確認することができる。 	
2 リクルート	<p>【リクルートが目標値を未達成な場合の原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルートは概ね良好である。 ・母親は100パーセントRCと対面している。父親は、RCと対面し説明する機会が得られれば、同意をいただくことが多い。 <p>【リクルートを増やすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、協力医療機関別、RC別の同意・不同意を集計し、現状分析に努めている。毎日のリクルート結果を医療機関別に集計して共有することで、やる気とチームワークの向上につなげている。 ・夕方以降の受診者、土曜日の受診者に声をかけた場合、1割ぐらいリクルートが増える見込みであるが、RCを増やす必要がある。 ・協力医療機関でリクルートできるので、自治体でのリクルートは考えていない。 <p>【リクルートの進捗が良好な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関の協力体制がしっかりしている。鳥取大学との連携が強く、常日頃から顔が見える関係にある。医師が声かけを行うと、8割方同意を得ることができる。 ・これまでRCは一人も辞めてなく、看護師長経験のある年配のRCがチームをリードし、人間関係がスムーズである。 	<p>○ 医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされ、リクルートは順調に進められている。</p>
3 フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・質問票の回収ができていない参加者には、複数回の電話で催促を行っている。催促後でも質問票の提出がない参加者への対応をどうするか検討が必要。 	
4 調査内容 (詳細調査を含む)	—	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
5	データシステムの運営	<p>【データシステムの設置・運営状況(人員、管理等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リクルートを優先しているため、人員体制が十分ではない。 <p>【入力遅延をなくすための取り組み(改善策)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度、入力専任の人員を増やすことで遅延に対応する。 ・同意書は即日入力をポリシーとしている。RCがその日のうちにユニットセンターに戻れるよう、自家用車を公用で使える制度を設けている。 	
6	生体試料の採取	<p>【検体試料の不適切な対応事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラベルの貼り間違え、伝票の記入ミスがあり、対応の徹底を図っている。 <p>【不適切な対応があった場合の対応手順、対応記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切な対応があった際も、RCからきちんと報告があがっている。 ・連絡帳に事例を記録し共有している。 ・協力医療機関ごとに採取手順が異なるので、ミスがないよう細かく打ち合わせをしている。 	
7	研修	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都ユニットセンターが主催する研修会に参加するなどして、ユニット内で情報共有を図っている。 	
8	リスク管理・危機管理	<p>【ユニットセンター内、コアセンター間のリスク管理・危機管理体制(緊急連絡網など)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理に関する対応の手順が決められている。 ・即時に対応ができるよう、RC全員に携帯電話を持たせている。 <p>【トラブル発生時における対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブル発生時には、母子専門の教員のバックアップが得られるよう、学内体制を構築している。 	
9	コミュニケーション	<p>【工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の両親層へのアプローチとして、ホームページの目立つところに、家族向けのメッセージ欄を設け、声かけ時にRCが妊婦に紹介している。 ・父親向けの説明チラシを独自に用意している。 ・調査地区内の公共施設や店舗等にポスターを貼ってもらうよう依頼している。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCの声かけの際、「エコチル調査」を知っていますかと聞くようにしてる。7月くらいから知っている人が増えている。 ・協力医療機関スタッフのモチベーションを上げるためにイベントを開催したい。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
10	倫理的事項	・妊婦さんへのインフォームドコンセントについては特別に研修を行い、倫理指針から逸脱しないよう遵守している。	
11	追加調査	【全体調査への影響の状況】 ・現在、追加調査について、200人ぐらいの参加者から同意が得られている。 ・地域性があり関心の高い黄砂に関する追加調査を実施することで、エコチル調査があまり理解できなくても、参加するきっかけになっている。	
12	委託契約	・優先順位を決めて、使用と削減を行っている。	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 高知ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制		
2	リクルート	<p>【リクルートを増やすための取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の声掛け後にRCが面談することを基本動線としている。 ・医療機関スタッフよりRCがインフォームドコンセントを行う方が、協力率が高い傾向にあることが分かった。RC不在時に来院した妊婦に対しては、RC在籍時に次回来院するように動線を見直し、同意率がアップした。 ・リクルートの上手なRCに、OJTをしてもらうなど、RCのローテーションを検討している。さらなる同意率向上が期待できる。 	○ 医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされ、リクルートは順調に進められている。
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ内容が決められておらず、参加者への説明が困難となっている。早めに情報があるとユニットの体制など体制が立てやすい。 ・小学校にも協力いただけるよう、教育委員会の方を、地域運営協議会のメンバーに入れている。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回(木、土)に全員参加のミーティングを開催。 ・リーダーが個別に協力医療機関等をパトロール訪問して、情報伝達や指導を行っている。 	
5	データシステムの 運営	<ul style="list-style-type: none"> ・データシステム入力の専任は1人。もう1人追加を予定している。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切な対応事例は、インシデントレポート集として記録している。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回全員参加のミーティングを開催。 ・RCにはリクルート以外の業務も行ってもらい、各個人の能力を発揮してもらっている。 	
8	リスク管理・危機 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、リスク管理マニュアルに準じて、記録類を整備する予定。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体として、高知新聞(購読率80%)、高知放送をターゲットとした広報活動を展開している。 ・2011年2月末で、認知度は、約40%と非常に高い。 ・広報専任の担当を置き、記者クラブに積極的に情報提供するなどして、メディアと連携した広報活動を行っている。 ・調査の郵送業務を通じて郵便局と関係を構築し、無料でポスター掲示を依頼。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回、同意書保管状況の確認作業を実施。 ・データシステムに登録済みの質問票、Dr調査票等の適切な廃棄作業を実施。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・学内共同研究促進のための各学部における説明会・アンケート調査や、エコチルのアウトカムの分野において、県内研究機関・大学附属病院との情報交換を実施。 	
12	委託契約	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の運用の工夫などにより、経費面の効率化を図っている。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 福岡ユニットセンター(産業医大サブユニットセンター)

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制		
2	リクルート	<p>【リクルートの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所では声かけのみ。10月以降RC再配置により区役所に配属していない。 <p>【声かけ率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声かけ率は、完全に把握できていない。RCが常駐する病院では把握可能。 ・医療機関側でセレクションしていることが判明し、声掛け率が十分ではなかった。2011年10月以降、最も出産数の多い病院において全ての対象者をRCにまわすよう要請し、リクルート数が80人/月に改善した。 	<p>○ リクルートは概ね順調に進められているが、目標数には達していない状況にある</p>
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理について、RCが病院ごとに紙ベース、データ管理者がファイルベースで行っている。進捗を両方からチェックを行っている。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回(木14時～)スタッフ会議を開催し、情報共有している。 ・RCは、毎日1回大学に出勤する。机とパソコンが支給されている。 	
5	データシステムの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・データシステムの入力機器の不足と、人手の不足があり、対応が困難となりつつある。効率化の工夫を情報共有していきたい。 ・データ入力は2台で対応しているが、全体の約3割しかできていない。入力用のPCは1台追加して計3台ほしい。 ・パイロット調査のデータは、スタンドアローンのパソコンで管理を行っている。 	<p>○ マンパワー不足により質問票のデータ入力が遅延しており、人員の確保や体制の見直しなどを検討することが望ましい。</p>
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関毎に定期的に説明会を実施し、基本的な採取手順などはラミネート加工した手順書を医療機関に設置し、すぐに確認できるようにするなど、手順の周知徹底を図っている。 ・RC同士で手順の確認など適宜行っているが、スピッツの破損等、不測の事態への対応をより徹底することが必要である。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・サブユニットスタッフについては、雇入れ時より研修を実施した後、他RCと共に医療機関へ同行し、実際のICを見た後実践し、福岡ユニットセンター長の承認を経てRCとして業務を行っている。 ・宮城ユニット・高知ユニットスタッフを迎えて情報交換を実施、平成23年には九州大学サブユニットのRCと共にスタッフ研修会を実施し、情報交換を行っている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
8	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・問合せ対応(クレーム対応含む)は記録表に記載し、9月より日報に記載。医療機関毎の報告事項を記載し、連絡体制を強化している。 	
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体とも協力して、八幡西区子育てフェスタなど、広報活動を行っている。 	
10	倫理的事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の記載された資料は、鍵付の専用室内に設置したキャビネット(施錠可)に保管し、関係者以外は閲覧できない体制を作っている。 ・個人情報に関するデータは全てコアセンターデータシステムのみで取り扱い、資料を廃棄する際もシュレッダー等の利用を徹底している。 	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・追加調査実施に当たっては、申請手順及びそれを順守することを各教員に周知徹底している。 	
12	委託契約	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動について、主にコスト低減を試みている。出来る限り費用のかからないよう、既存のパネルやのぼり、チラシ等を利用し、ぬりえやポスターなど可能なものはスタッフ自ら制作した。また、北九州市とも連携し、各種イベントへの参加やチラシの配布、情報誌への掲載などをコストをかけずに実践している。 ・このほか、物品の再利用、白黒印刷の推奨などスタッフにも日頃よりコスト低減を促している。 	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート

対象： 福岡ユニットセンター(九州大学サブユニットセンター)

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制		
2	リクルート	<p>【リクルートの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子手帳の配布は、福岡市では各医療機関が行っている。 <p>【協力医療機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市東区 年間2,900人のうち、2100人が協力医療機関で分娩している。 ・年間300人の分娩実績のある協力医療機関が閉院した。そのため、対象者が分散した。 ・協力医療機関が移転したため、移転前後に、分娩数が減った。 ・以上2件の閉院と移転の影響があり、リクルート数が目標に達していない。 ・改善策として、2011年12月より、協力医療機関を1件追加する。 <p>【声かけ率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東区の4病院は、RCが常駐しており、専用コーナーを設けてくれている。その他の地域は、病院スタッフがリクルートしている。 <p>【同意率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・84%と、極めて高い。 	<p>○ 2つの協力医療機関における閉院や移転の影響を受けて、リクルート数が目標に達していない。引き続き、目標に達するよう地域の調査体制を見直し、改善を図ることが望ましい。</p>
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市近郊の里帰り分娩の場合、範囲をあらかじめ示して、臍帯血を取りに行く体制をとっている。里帰り分娩先の病院は、調査の趣旨を説明することで、協力が得られている。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・RCは、毎日1回朝か夕方、大学に出勤する。 ・月2回スタッフ会議を開催し、情報共有している。 	
5	データシステムの 運営	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力は、2週間以内にすべて完了している。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・検体採取に関して二重チェックを徹底した。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関のスタッフに対しても、リクルートを担当する者は研修を受け試験終了している。 ・1協力医療機関に、少なくとも2名以上のRCを配置している。 	
8	リスク管理・危機 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話をRCが持っており、何かあった場合、ユニットセンターに連絡をとる体制になっている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	・市政だよりなど、予算をかけず、地道な草の根運動を展開している。	
10	倫理的事項	・個人情報を含む資料は、施錠できる部屋、収納に保管し、外部への持ち出しを禁じている。	
11	追加調査	・追加調査についてコアセンターより承認を受け、現在環境省に申請中。	
12	委託契約	・経費削減意識は高い。 ・検体回収も、場合によっては、スタッフやRCが取りに行っている。	

平成23年度エコチル調査 自己点検・実地調査・所見シート
 対象： 南九州・沖縄ユニットセンター

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
1	実施体制	<p>【協力体制上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本、宮崎、琉球との連絡を、WEB会議で行う予定。 	<p>○ 調査地区が広域であることから、各地域の事務局(大学)や現場とさらなる連携を図ることが望ましい。</p>
2	リクルート	<p>【リクルートの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本は、母子健康手帳発行窓口で声掛けし、協力医療機関でリクルートを行っている。 ・宮崎、琉球は、母子健康手帳発行窓口でリクルートを行い、協力医療機関で同意書回収。 <p>【リクルートを増やすための取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RCを、12月に人吉1名、天草1名追加する。 ・例えば、最も分娩数の多い協力医療機関のリクルート数が減少しているが、M-T2(妊娠中期)、OM(出産時)等の調査で声掛けが十分にできなくなっていると分析している。 <p>【リクルートの進捗が好調な場合、その理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎でリクルート率が高いのは、病院スタッフがエコチルRCの資格を持っていること、分娩数の多い3箇所の協力医療機関が協力的であることと考えられる。 	<p>○ リクルートは概ね順調に進められているが、目標数には達していない状況にある。天草地域においては、さらなる医療機関や医療関係者との連携を図ることにより、リクルートの確保が望まれる。</p>
3	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・母子搬送事例が10例あったが、すべて追跡できている。母子搬送の医療機関(熊本市内3箇所)に、RCが各2名いる。 	
4	調査内容 (詳細調査を含む)	—	
5	データシステムの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・質問票のデータ入力は、質問票の記入漏れチェック→データ入力→第三者によるダブルチェック の手順で行なわれている。 	
6	生体試料の採取	<ul style="list-style-type: none"> ・生体試料の回収ミスが、同じ病院で複数回発生した。病院内の周知を改めて徹底した。また産科だけでなく、中央検査室にも説明するなど、病院全体で対応してもらうことが必要であると認識し、状況は改善した。 	
7	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関のスタッフに対しても研修を行い、RC資格者としてリクルート業務を担当。1協力医療機関に、少なくとも2名以上のRCを配置している。 	
8	リスク管理・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント等はユニット内の各地域・サブユニット担当者に連絡が入り、その後リスク管理者に報告、その後各担当者がコアセンターに報告を行っている。 	

	自己点検項目	取組状況及び予定 ※2011年11月～12月記入	所見
9	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年6月～11月末まで、毎週水曜10:55～ 90秒のCMを流している。12月以降はHPで見れる。 ・メディア(特にTV)への露出時は、スポークスマンを決めている。 ・1年に1回参加者にグッズを渡し、モチベーションの継続を検討している。 	
10	倫理的事項	—	
11	追加調査	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に負担がかかるため、リクルートの状況をみながら、調査地域も含めて行う予定。 	
12	委託契約	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減のため、現地にRCを雇用し交通費等を削減している。 ・郵送費を削減することを目的に、謝礼にかかる電子マネーの導入を進めている。 	